

日常会話における「～たりする」の使用実態
—日本語の配慮言語行動に着目して—
**On The Use of ~*tarisuru* in Japanese Daily Conversation:
Focusing On Considerate Language Behavior in Japanese**

許 夏玲

東京学芸大学国際交流/留学生センター

要旨

本研究では、日常会話に用いられる「～たりする」の使用実態をテレビのバラエティ番組やトークショーから収集された用例に基づいて考察した。また4名の日本語母語話者に日頃の「～たりする」の用法について感想を尋ね、日本語母語話者がこの表現を使用する際の意識を確認した。「～たりする」表現には本来「ほかにも可能性があるという含み」の意味合いがあり、直接的かつ断定的な言い方より和らげる効果があると考えられる。それゆえ、日常会話において、特に相手への依頼や情報要求の場面でよく用いられる。これは日本語母語話者が直接的または断定的な言語表現より間接的な言語表現または婉曲表現を選択しやすいという相手を配慮する言語行動の習性と一致していると考えられる。しかし、実際の使用場面において、多くの日本語母語話者では「ほかにも可能性があるという含み」を特に意識せずに「～たりする」を使用していることがわかった。

キーワード：

「～たりする」、使用実態、使用変化、婉曲表現、配慮言語行動

日常会話における「～たりする」の使用実態 —日本語の配慮言語行動に着目して—

許 夏玲

東京学芸大学国際交流/留学生センター

1. はじめに

日常会話において、相手に依頼したり、何かを尋ねたりするときに「～たりする」がしばしば用いられている。これは本来「～たり、～たりする」という表現から例を一つ挙げる言い方に転じてきたものである。用法は既に『日本語文型辞典』（1998）、『初級を教える人のための 日本語文法ハンドブック』（2000）、『どんな時どう使う 日本語表現文型辞典』（2007）などに記載されているが、近年若者から中年層までの日常会話における「～たりする」の使用実態は従来の教科書や文法解説書に記載されている使用例や用法と違う側面がうかがえる。たとえば、「この辺でおいしいものとかあってあたりしますか。」、「言葉遣いとかって難しかったりするんですか。」、「どういう時が、風が強いとかあたりするんですか。」などはその例である。なぜはつきりとした断定的な言い方で「この辺でおいしいものってありますか。」、「言葉遣いって難しいでしょうか。」、「どういう時が、風が強いでしょうか。」または「風が強いつてどういう時でしょうか。」というように表現しないのか、筆者は疑問を抱いた。そこで、日常会話における「～たりする」の使用実態を明らかにしたいと思うに至った。

2. 研究目的

本研究では、「～たり、～たりする」の用法を概観した上で、日常会話に用いられる「～たりする」（「～たりする」の変異種として「～たりできる」、「～たりしない」、「たりとかってさせてもらってもいいですか」なども含む）の使用実態をテレビのバラエティ番組やトークショーから収集された用例に基づいて考察し、また4名の日本語母語話者に上述のような「～たりする」の用法について感想を尋ね、日本語母語話者がこの表現を使用する際の意識を確認する。この研究により、言語表現の使用変化および日本語の配慮言語行動という言語表現のもう一つの側面を明らかにすることができると思われる。

3. 「～たり、～たりする」の意味用法

これまでの研究や文法解説書には、主に「～たり、～たりする」の用法に集中しており、それぞれの用法に対する解説が記述されている（パリハワダナ 2002, 『日本語文型辞典』1998 など）。『日本語文型辞典』（1998:214-215）での記述は以下のようにまとめられる。

① 「...たり...たりする」

「いくつかのことがら、行為のうちの代表的なものを二、三あげる表現」
「ひとつだけ例をあげて、他にもあることを暗示する場合もある。」

「この文型だけで言い切りで終わるときは、最後に来る動詞には必ず『たりする』が付く。」

例：給料日前には昼食を抜いたりすることもある。

② 「...たり...たり」

「ある状態、行為を交互に繰り返すときの様子、あるいはふたつの対照的な状態を表す。よく使われる対照的な状態には例のほかに、『あったりなかつたり』『上がったたり下がったり』『泣いたり笑ったり』『乗ったり降りたり』『出たり入ったり』などがある。」

例：薬はきちんと飲まなければいけない。飲んだり飲まなかつたりでは効果がない。

③ 「...たり したら/しては」

「ほかにもあるという含みで例をあげる言い方」

「(例) はっきり言わないことで表現がやわらかくなる。」

例：その人のいないところで悪口を言ったりしてはいけない。

④ 「...たりして」

「例をひとつあげる言い方。ほかにも可能性があるという含みで、直接はっきり言うことを避けるときなどに使われる。距離を置いたやゆ的な表現。若い人のくだけた話し言葉に使われることが多い。」

例：A：変だね。まだだれも来てないよ。

B：約束、あしただったりして。

日常会話における「～たりする」の使用実態
—日本語の配慮言語行動に着目して—

本研究で対象としている日常会話によく用いられる「～たりする」の表現は上述の④の用法のものに相当する。④のような用法は、1984年～1998年の頃、『新明解国語辞典[第四版]』、『広辞苑』[第五版]などの辞典での記載が見当たらなかった。2000年頃以降、「一種の婉曲表現として使われることが多い」(『日本語文法ハンドブック』p.197)、「場面や状況から後半の『・・・たり』が聞き手や読み手に容易に推測しうる事柄だと判断できる場合には前半のみの『・・・たり』の形だけにすることもある」(『新明解国語辞典』[第八版]p.969)という記述がある。また、他の文法解説書においても、この「～たりする」の表現の用法について似たような記述がある。

『V たり』を1回だけ使い、ほかにもあるということを暗示する言い方」

例：もっと広い家に引っ越して犬を飼ったりしたい。

「婉曲表現として使う場合もある。」

例：たばこの吸いがらを道路に捨てたりしないでください。

『どんな時どう使う 日本語表現文型辞典』

(2007:143-145)

「動詞一つだけでは『～したりする』の形で使うことも可能です。」

例：休みの日は買い物に行ったりします。

「この場合も他の動詞(例えば『映画を見る』)を暗示する点は同様です。一種の婉曲表現として使われることが多いものです。」

例：かぎをなくしたりするといけないから、すぐ返してください。

『初級を教える人のための 日本語文法ハンドブック』

(2000:196-197)

また、パリハワダナ(2002)では、一つの「たり」節をとる「(～たり、)～たりする」文の意味を取り立てとして捉えている。それは取り立て助詞「など」と類似した機能を発揮しているからだという。そして、「(～たり、)～たりする」文は「など」「なんか」と共起しやすく、取り立ての意味から更に同類の暗示、和らげという意味に分けられるとしている。それらの例として以下のものが挙げられる。

「東が来ていて、父、母と卓袱台を囲んでいるのだ。

清さんも調理場のほうから、チラッとのぞいたりする。」(p.10) [同類の暗示]

「純子、お前、あんまり変なことに関わり合ったりしない方がいいよ」
(p.11) [和らげ]

上述の文献での「～たりする」の記述をまとめると、「例を一つ挙げる」「ほかにもあることを暗示する」「婉曲表現」「和らげ」と考えられる。

更に、「取り立て」の意味を表す一つの「たり」節をとるものは日常の用法としてよく用いられることがわかった。パリワラダナ(2002)では、小説、ドラマのシナリオなどの10作品を対象に368の用例を収集し分析したところ、「取り立て」の意味(「たり節1つ」)は163例も占めており、次いで「例示」の意味(「たり節2つ」)は154例になると示している。

本研究で収集した用例から考察したところ、「～たりする」表現は取り立てとして用いられる「って」(「今後、当たり前になるような技術ってなんかあったりするんですか」)、例を挙げるために用いられる副助詞「とか」(「言葉遣いとかって難しかったりするんですか」)、「なんか」(「カレーなんかもあったりするんですか」)などと共起しやすいことから、パリワラダナで述べられている「取り立て」の意味を持つことと一致している。

上記のことから日常で「～たりする」がよく用いられると言えるが、これまでの文献に記述されている用例とは違って、筆者が日常会話において、特に話者が相手に依頼したり、何かを尋ねたりするときに「～たりする」の使用が多く見受けられたことから、今までの文献で触れられていないところを更に明らかにしたい。

4. 「～たりする」の使用実態

本研究では、比較的にならな会話に近いテレビのバラエティ番組やトークショーから会話例を収集して考察した。その結果、「～たりする」表現は主に依頼や相手に尋ねるような会話場面でよく用いられることがわかった。

日常会話における「～たりする」の使用実態
—日本語の配慮言語行動に着目して—

話者が知らないことを相手に尋ねるということは、相手から情報や知識を得て自分の認知環境を充実させられることから、相手に話者の要求に応じて反応や行動してもらおうように働きかけるという依頼の言語行動と似ているように思われる。「～たりする」表現はこうした会話場面で用いられやすい傾向がある。以下の会話例を見てみよう。

例(1)

サーヤ：それは標準機能として

イシダ：そうですね。スマホに

そういうテクノロジーを使っていろんな問題を解いていくというのが

一つの事例はスマートホーム（サーヤ：なるほど）の話になります。

ニシダ：そういうのを設計していくのがアーキテクト

イシダ：設計して実装までするっていう

ニシダ：あっ、そうか、実装までするのか、それが

サーヤ：全部やってしまうっていう

オオヅカ：今後、当たり前になるような技術ってなんかあったりするんですか。

イシダ：そうですね。これからの社会問題っていうところからしていくと、フィルターバブルっていう現象なんですけど、インターネット上で「バブル」の中に包まれたように自分の見たい情報しか見えなくなること

（「TVer で学ぶ-最強の時間割」2023.5.14 放送）

例(2)

ナレーター：You Tuber を始められたきっかけっていうのは？

十和子：私の美容法は私の年代だけではなくて、20代の方もしてほしい美容法 なんです。YouTube だったら、いつでも好きなときは見ていただけるかなと思いましたし、そういう方にも見ていただけたらいいなと思って始めました。

ナレーター：しかし、その登録者数はまだ1万6000人

十和子：全然まだまだ

ナレーター：目標は？

十和子：目指すは 30 万人です。

ナレーター：すると

十和子：なんかアイデアって教えていただけたりしないですか。

ナレーター：いや、いいアイデア、あの、あれが提案したいのだが、当
番組の登録者数は 9000 人

(「ノブナカなんなん？」 2022.2.9 放送)

例(3)

西野：やっぱり朝早いつて何時起きとかなんですか。

貴島：3時（西野：えっ）3時半とか

西野：はい

貴島：これでも遅くなったんですけど

貴島：月曜日から金曜日まで

西野：慣れました？もう

貴島：慣れましたね。もう今は5年目なんで（西野：うん）、すごく長く
やらせていただいています

西野：言葉遣いとかって難しかったりするんですか。

貴島：うん、生放送だし、失言とかないようにめっちゃ（西野：うん）
気を付けてますけど

(「グータンヌーボー²」 2021.7.10 放送)

上述の会話例において、「～たりする」表現の代わりに「今後、当たり前になるような技術ってなんかありますか」(例1)、「なんかアイデアって教えていただけませんか」(例2)、「言葉遣いとかって難しいでしょうか」(例3)に言い換えても差し支えないと考えられる。しかし、第3節でも述べたように、「～たりする」表現は「例を一つ挙げる」「ほかにもあることを暗示する」「婉曲表現」「和らげ」という意味機能を持っていることから、依頼や情報要求のような利害関係（依頼する側は相手からの情報や応じてくれた行動などが得られるため、利益を得るのに対して、依頼される側は相手への情報提供や行為実行から手間暇を割くため、損失を被ること）が生じるため、相手への負担が軽減できるように間接的言語表現（「～たりする」）

日常会話における「～たりする」の使用実態
—日本語の配慮言語行動に着目して—

を用いて、配慮のある言語行動を行うと考えられる。これらの「～たりする」表現は、「概念」（「当たり前になるような技術内容」例1）、「数量」（「登録者数を増やすアイデア」例2）、「程度」（「難しい言葉遣い」例3）を曖昧にしている効果があるとも考えられる。

日本語は「曖昧表現」の多い言語であると外国人学習者によく思われているようであるが、日本語母語話者は相手とのコミュニケーションが円滑に行われるようにこれらの表現を用いていると考えられる。許（2014）では、近年「若者言葉は言葉の乱れ」という話を耳にするとして、若者（10代～20代）の流行語において、形態的派生形、意味の転換、曖昧さなどの特徴がよく見られると指摘している。日常会話、特に若年層でよく用いられる「～たりする」表現は若者言葉と関連していることも否めない。そこで、筆者は4名の日本語母語話者にいくつかの「～たりする」の会話例を提示して感想や使用意識等を確認した。

5. 「～たりする」表現に対する日本語母語話者の使用意識

今回の収集した会話例には、相手に情報を要求する場面で次のような「～たりする」表現が用いられていた。

例(4)

ナレーション：誰か整えたわけではなく、杉の木が自然とこんな形に

ゲスト：でっかいトトロだ

AC：この辺でおいしいものとかあってあたりしますか。

おばあさん：おいしいものってなんだ、わからねえ。

（「ナニコレ珍百景」2022.3.27 放送）

例（5）

おばあさん：[風について]今日全然静かだもんね。全然、こんな静かなときに

アナウンサー：どういう時が、風が強いとかあたりするんですか。

男：天気予報の天気図がありますよね？

アナウンサー：はい

男：西高東低になった時のここ[群馬県]の辺は晴れても日本海側にぐんと雪が降ったでしょ。

アナウンサー：はい

男：あういう時のがすごい。

アナウンサー：はあ～

(「秘密ケンミン SHOW 極」2022.2.24 放送)

また、テレビ番組でのインタビューで、アナウンサーがテーマパークの客に「おすすめのポイントがあったりする？」と質問したため、相手に何かを勧めてもらいたいときに「～たりする」表現が用いられると考えて、同じような場面でどのような表現を用いるかを4名の日本語母語話者に尋ねた。以下はその回答結果である。

- ・「すみません。おすすめの場所ってどこかあったりしますか？」(女性 A, 20代, 学部生)
- ・「おすすめのポイントがあったりする？」(男性 B, 20代, 学部生)
- ・「おすすめのポイントがあったりしますか？」(女性 C, 50代, 大学院生)
- ・「なんか良さげなスポットある？」(女性 D, 20代, 大学院生)

次いで、「おすすめのポイントがあったりしますか？」と「おすすめのポイントがありますか？」とでは、どのような違いがあるかを尋ねたところ、以下のような回答があった。

- ・「『あったりする』は必ずしもあるとは限らない感じがして、『ありますか？』と聞かれると絶対答えなければいけない感じがする。」(女性 A)
- ・無回答(男性 B)
- ・「『あったり』の方が『もしあれば』のニュアンスが含まれ、『ありますか』より柔らかい印象を受ける。」(女性 C)
- ・「『あったり』のほうがカジュアルな気がする。」(女性 D)

例(4)のような会話状況において、全員は「この辺でおいしいものとかってあったりしますか。」のように相手に尋ねるとわかった。そして、上掲のような「～たりする」表現の使用についてどう思うかを尋ねたところ、以下のような回答があった。

日常会話における「～たりする」の使用実態
—日本語の配慮言語行動に着目して—

- ・「自然な言い方」「聞いたことがあるし、自分も時々使う」(女性 A)
- ・「自然な言い方」「聞いたことがあるし、自分も時々使う」(男性 B)
- ・「やや不自然な言い方」「聞いたことがあるし、自分もよく使う」(女性 C)
- ・「後者(例 4)は自然だと思う。」(女性 D)

「～たりする」表現は「ほかにも可能性があるという含み」の意味合いがあり、直接的かつ断定的な言い方より和らげる効果があると言われてい
る。そこで、以下の用例を用いて、その「ほかにも何かあるという含み」
について日本語母語話者の意見を尋ねた。

例(6)

女：あの一(はい)、今いいですか。大丈夫ですか。

男：はい。

女：東京タワー登りたくて

男：おお一

女：でも、わからなくて入り口が

男：はいはいはいはい

女：どこですか。

男：向こうから行ったほうが入りやすい。

女：もし時間があったら入り口まで案内してもらったりできるんですね。

男：いいっすよ！

(「あざとくて何が悪いの？」2022.2.24 放送)

上掲の会話例の「～たりする」表現について、日本語母語話者は以下の
ように回答した。BとCは無回答だった。

- ・「男の人に少し気がある？感じ??？」(女性 A)
- ・「ないと思う。あるとすれば女は男のことを好きになった？」(女性 D)

また、前掲の例(2)の「なんかアイデアって教えていただけたりしない
ですか。」について同じ質問をしたところ、以下の回答を得た。半数以上は
「ほかにもあることを暗示する」という意味合いが取れなかった。

- ・「わかりません。」(女性 A)
- ・「ない」(男性 B)
- ・「宣伝してほしい」(女性 C)
- ・「大きな数字に向けて目指すと言っているものの、他人にアイデアを聞くくらい甘く見ている。」(女性 D)

続いて、依頼や情報要求のとき、相手に上掲のような「～たりする」表現を用いるかを尋ねた。女性 A は時々使う、男性 B は使わない、女性 C と女性 D はよく使うと回答した。その使用理由として、A 女性は「婉曲的に相手に伝えることができるから。観光に向いている場所ってあったりしますか？」と「～たりする」表現の使用を好むようである。女性 C は「使ったほうが柔らかな表現になると思うから」と考え、また「美しくない日本語だと思いながら、使ってしまう」と回答した。「～たりする」表現の使用は中年層まで広がっているとわかる。女性 D は「直接的な表現を避けることで丁寧さや謙虚さを表現したいのだと思う。」という理由で「～たりする」表現をよく使用している。

今回の聞き取り調査では、4名の日本語母語話者のみを対象としたため、十分な結果が得られたとは言えないものの、「～たりする」表現の日頃の使用について、日本語母語話者の回答により一定の様相および肯定的な意見がうかがえた。

6. まとめと今後の課題

本研究では、日常会話に用いられる「～たりする」の使用実態をテレビのバラエティ番組やトークショーから収集された用例に基づいて考察し、また4名の日本語母語話者に「～たりする」の用法について感想を尋ね、日本語母語話者がこの表現を使用する際の意識を確認した。「～たりする」表現には本来「ほかにも可能性があるという含み」の意味合いがあり、直接的かつ断定的な言い方より和らげる効果があると考えられる。それゆえ、日常会話において、特に相手への依頼や情報要求の場面でよく用いられている。これは日本語母語話者が直接的または断定的な言語表現より間接的な言語表現または婉曲表現を選択しやすいという相手を配慮する言語行動の習性と一致していると考えられる。しかし、実際の使用場面において、多くの日本語母語話者では「ほかにも可能性があるという含み」を特に意識せずに「～たりする」を使用していることがわかった。今後、会話例を多く収集し、日本語母語話者を対象とした調査をより詳しく実施し、現代日本語の使用実態を実証していきたい。

日常会話における「～たりする」の使用実態
—日本語の配慮言語行動に着目して—

参考文献

- 庵功雄 他著 (2000) 『初級を教える人のための 日本語文法ハンドブック』 スリー
エーネットワーク
グループ・ジャマシイ編著 (1998) 『日本語文型辞典』 くろしお出版
友松悦子 他著 (2007) 『どんな時どう使う 日本語表現文型辞典』 アルク
ルチラ バリハワダナ (2002) 「(～たり,) たりする」文の意味用法について 『金沢大
学留学生
センター紀要』 第 5 号, pp.1～24
許夏玲 (2014) 「日常会話における『曖昧表現』の使用実態」 『日本語教育と日本研究
における双方向性アプローチの実践と可能性』, ココ出版, pp.445～454
松岡弘 監修 (2000) 『日本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク

参考資料

- 『新明解国語辞典』 [第四版] (1989) 三省堂
『広辞苑』 [第五版] (1989) 岩波書店
『新明解国語辞典』 [第八版] (2020) 三省堂

例文出典

- 「TVer で学ぶ-最強の時間割」 TVer 2023.5.14 放送
「あざとくて何が悪いの？」 テレビ朝日 2022.2.24 放送
「ナニコレ珍百景」 テレビ朝日 2022.3.27 放送
「ノブナカなんなん？」 テレビ朝日 2022.2.9 放送
「秘密ケンミン SHOW 極」 読売テレビ 2022.2.24 放送
「グータンヌーボー²」 カンテレ・フジテレビ 2021.7.10 放送